

現場で見るアメリカカンザイシロアリの特徴

ブラザー興業 株式会社 原 島 光 央

今回は夏に施工したアメリカカンザイシロアリ防除の現場をご紹介します。
とある施設での防除でしたが、アメリカカンザイシロアリの特徴がよくでていました。

ご紹介する前にあらためてアメリカカンザイシロアリの特徴は……

①乾いた木材に棲む

木材の中のほんのわずかな水分だけで生息できる
土壌を必要としないため天井裏に直接棲みつかれたら発見が困難

②複数の女王による複数の小規模コロニー

同じ建物内の全く別フロアで被害が出ることもある

③蟻道を作らず、木材に直接入り込む

木材内部に孔道を作り、外側に蟻道を作らない
特徴的な糞を発見するまで気づかないことが多い

今回施工した現場は4階建ての鉄筋コンクリートで、築年数は40年以上のかなり大きな施設です。
アメリカカンザイシロアリの特徴的な被害現場をご紹介します。

4階建て鉄筋コンクリート施設の2階と3階の離れた場所で被害がありました。羽アリが飛来した場所に木があれば直接侵入し、複数のコロニーを形成してしまう厄介さがでています。
2階の被害場所は、普段使用していない部屋の流し台でした。



夏の日差しが照り付ける暑い部屋で、流し台ではありますが使用しておらず、水気はありません。
コンクリート造りのため木材は流し内部のみです。

「こんなところにシロアリがいるの？」
部屋に入った第一印象でした。

疑心暗鬼でしたが、周辺には特徴的なアメリカカンザイシロアリの糞が多数確認されました。
ちなみに食べた木材の色によって糞の色も濃淡があります。
引き出しの中にも糞が溜まっていました。



大量の糞を確認しても部屋の暑さと水気の無さから、これらは過去の糞で現在もアメリカカンザイシロアリが生息しているとは思えませんでした。
引き出しを開けるとやはり確認できたのは羽アリの死骸のみでした。



しかしながら特徴①の通り、木材のわずかな水分で生息可能でした。
引き出しのプラスチック蓋を外してみると…



働きアリが元気に働いていました！
本当に乾燥した木材で活発に生息できることに驚きました。

流し台は廃棄予定とのことですが、木部は食害されてスカスカ状態でしたので、薬剤をムース状にして塗布しました。



次は3階です。被害箇所は唯一の木部である窓枠でした。
先ほどの流し台よりさらに木部は少なく、まさにピンポイントでの加害です。
特徴③の通り、蟻道を必要とせず、羽アリが飛来した場所に木があれば直接侵入できる厄介な生態です。
等間隔で穿孔処理し薬剤を注入すると、木材内部の孔道から薬剤とともに糞が噴き出てきました。



今回はたまたま糞が発見された箇所の施工でしたが、天井裏や壁の中など他にも被害箇所があるのかもわかりません。
ヤマトシロアリのように床下処理で5年保証の予防も難しく、発見も難しく、発見した時には広範囲に被害が広がっている・・・
念願のマイホームがアメリカカンザイシロアリの被害を受けたときのショックはいかほどでしょうか。
現在、被害地域は北海道を除く全国で局所的ですが、家具や木材にコロニーを作ったまま持ち運ばれるため生息範囲は今後どんどん拡大していくでしょう。
個人的には特定外来生物に指定されていないのが不思議ですが、我々PCO従事者も虫の日イベントなどを通じて世の中にもっと周知していく必要があると思います。